

平成28年度事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人 飯綱高原よっころしよ

平成29年度は(1)飯綱高原地域内にある遊休農地の再生・活用事業(2)地産地消・食育推進事業 (3)自治組織や企業などとの連携による飯綱山麓の地域振興事業 (4)地域福祉の推進に係る高齢者等いきがい生活支援事業 (5)飯綱高原ビジターセンター運営事業を実施した。

(1) 遊休農地再生・活用事業

① 遊休農地での農作物栽培

遊休農地解消を目的に、よっころしよ農場等において、飯綱高原にふさわしい景観の形成するためのソバなど景観作物の栽培や、イベントなどに用いる夏野菜(ジャガイモ、トマトなど)、冬野菜(大根など)の栽培、付加価値の高い「千捻花豆」の栽培に取り組んだ。

また、芋井広瀬地区において中山間地直払協定に参画し、小麦(シラネ、伊賀筑後オレゴン)を収穫した。

② 食農体験イベントーいいづな農楽舎の開催

農業体験希望者を地域内外から募集し、日頃は経験できない農作業体験を提供し「食べ物」をつくる楽しみ、喜びを共有してもらうため、年3回のイベントを実施した。イベントを通じて人々の交流・ふれあいの場を提供した。昨今の体験・アクティビティーの需要を捉え、ファミリー層を中心にリピーターの参加につながった。

平成28年5月8日(日)

ジャガイモ・花豆の植え付けと山菜ランチ 43人

平成28年7月31日(日)

ソバの種まき・ジャガイモの収穫と農場バーベキュー 44人

平成28年11月6日(日)

大根の収穫とそば打ち講座 50人

③ ヤギを活用した除草活動、ふれあい体験

(長野市中山間地域農業活性化事業、飯綱町)

荒廃農地の拡大に歯止めをかけるとともに、観光地として魅力を向上させるため、山羊を飼育し、農地の除草事業、ふれあい体験事業に積極的に取り組んだ。これにあわせて、第1種動物取扱業の登録を行った。

中でも、飯綱町“ヤギ大活躍プロジェクト”に協力して、しなの鉄道牟礼駅に「ロール駅長」と「クロオ助役」を派遣し、北しなの線の利用客増に貢献した。また長野市広瀬地区の棚田、鬼無里地区の太陽光発電施設、長野市湯谷小学校、篠ノ井西小学校に長期にレンタル、また保育園や自治会の行事にも1日派遣を依頼された。

山羊を通じて、遊休農地の問題に関わりの薄かった層への寄付・ボランティア活動の拡大を図った。

・ ヤギ小屋の増設

地域の間伐材を利用して、会員、ボランティアの手作りでヤギ小屋を1棟を増

設した。

- ・ ヤギによる農場内の除草デモンストレーション
よっこらしょ農場、長野市広瀬地区の棚田、鬼無里地区の太陽光発電施設、飯綱町社会福祉施設で放牧による除草を行い、その効果を実証し、成果をあげた。レンタル事業のプレゼンのためデーターを記録し、行政機関や農家などへの広報資料を作成した。
- ・ 除草、ふれあいのためのヤギレンタル
飯綱町“ヤギ大活躍プロジェクト”に協力して、しなの鉄道牟礼駅に「ロール駅長」と「クロオ助役」を派遣し、北しなの線の利用客増に貢献した。また長野市湯谷小学校、篠ノ井西小学校に長期にレンタル、また保育園や自治区の行事にも1日派遣を依頼された。
- ・ ふれあい体験等による寄付・ボランティアの拡大
よっこらしょ農場や他事業と連携して、ヤギとのふれあい体験を行い、遊休農地問題への啓発と寄付・ボランティア活動の拡大を図った。なお、長野市街地では規制があり、ふれあい事業の実施について課題を残した。

ボランティア・寄付者数 約12000人
(延べ人数、クリック募金者数を含む)

(2) 地産地消システム構築・食育推進事業

① 「ながのいのち」ブランド推進協議会への参画

協議会構成員として、長野市農業公社の「ながのいのち」ブランドの推進のための活動に取り組んだ。長野市中央通り商店街の催しにあわせて、焼きとうろしの販売を行った。

平成28年8月12日 お花市（歩行者天国）

② 食育プログラムの開発と実施

女性中心のサークルとして、「五感を使って旬をいただき、安心な食を大切にする心を育てる」をコンセプトとする効果的な食育プログラム（「大豆」をテーマにしたプログラム）を実践した。自分の手で調理・加工体験をしていただくことで、地産地消の考え方の普及や大人を含む食育の推進を図った。

- ・ 大豆栽培：アオダイズ 約10a
- ・ 味噌づくり講座の実施：家庭でも実践できる味噌づくりの講座を開催し、普及に努めた
- ・ メンバー数 10名

③ 花豆加工品開発事業

27年度に開発を行ったよっこらしょブランド「千稔花豆」を利用したスイーツ（ロールケーキ、タルト）を受注販売した。マーケティングを行うことができ、6次産業ビジネスへの展開の検討材料となった。

④ 芋井地区農家民泊の農業体験メニューへの協力

芋井地区で実施している民泊事業の一環として、修学旅行生に対する農業体験の指導等を行った。

(3) 地域振興事業

① テレビ信州「伝えよう！里山ものがたり」の協働運営

賛助団体会員のテレビ信州が取り組んでいる「伝えよう！里山ものがたり」キャンペーンの一環として、一般視聴者参加の米作り、地元芋井小学校全児童とふるさとの森づくりを行い、一般の方々の目を通した「里山」「田んぼ・畑」の姿を視聴者に伝え、「里山再生」のプロジェクトを多様な主体の参加によって推進した。

ア 里山まるかじり大作戦

- ・ 田植え、稲刈り、飯ごうすいさん、大豆栽培、里山整備、餅つき、納豆づくりなどのバリエーションに富む企画を行った。
年間8回 芋井広瀬地区 水田（10a）及び笹峯山（6ha）
- ・ 一般の方へのPRとして、「TSB秋の大収穫祭」（11月松代城址公園）に参加した。

イ 森林環境教育、里山遊歩道整備、支障木伐採・製材

（長野県緑の基金 緑の募金公募事業）

- ・ 芋井小学校全校児童に対する森林環境教育を行い、児童の描く「ゆめのもり」に沿って新しい価値を持つ森づくりを進めた。
年間4回 「観る・遊ぶ」、「学ぶ・育てる」、「創る・食す」をテーマとする森林内での事業
- ・ 芋井小学校やTSBのイベントで利用している笹峯山をより魅力的にするため、遊歩道整備を行った。また他団体と協働して、飯綱山麓、別荘地等での支障木伐採を行い、移動製材機による製材をおこなった。製材したものはヤギ小屋の建設に利用するとともに、端材はクラフト体験の材料とした。

② 飯綱高原のブランド・観光PR

飯綱高原の観光交流イベント等に焼きとうもろこしのブースを設け、イベントの盛り上げ、飯綱高原ブランドの宣伝に協力した。

平成28年8月27日、28日 TSB24時間テレビ39

③ 飯綱高原の自然資源を活かしたイベントの開催

飯綱高原の自然を満喫できるイベントを開催することにより、訪問者相互の交流と地域資源を活かした飯綱高原ブランドづくりと発信を図った。森林に親しむ入り口として、クラフト体験をスキー場にきた多くの家族・子どもたちに体験してもらうとともに、ジビエ汁の振る舞いを行い、飯綱高原の魅力の向上に努めた。

平成29年2月26日 スノーシューイベント

冬だからこそそとごはん〜リッチにスノーシュー 40人

（場所：長野カントリーゴルフコース）

平成29年2月11日 飯綱高原スキー場クラフト体験 約300人

(4) 高齢者等生きがい生活支援事業

（ろうきん助成プログラム）

よっこらしよ農場併設のカフェ&サロン「よのや」を拠点に、地域の高齢者等を対象

にした「いきがづくり」、「居場所・つながりづくり」、「多世代交流」を行った。29年度に向けて、男性シニアの活躍をうながすプロジェクトをスタートさせた。

- ・ 生きがづくり活動としての各種講座の運営
- ・ 社会貢献活動の場の提供
地域の高齢者等とともに「遊休農地再生活用事業」「ヤギプロジェクト」などの社会貢献事業を実施した。

(5) 飯綱高原ビジターセンター運営事業

ビジターセンター「オトナリハウス」を飯綱高原観光協会とともに運営、維持管理し、訪問者に対して飯綱高原の魅力を発信した。

飯綱高原観光協会との共同による維持管理
(固定資産税等の固定費負担)

(6) ボランティア等の受入

授業の一環としての長野高校グローバルハイスクール、ボランティアへの理解促進のためのサマーチャレンジボランティア、県職員のNPOとの協働に関する研修として、農場での農作業やイベント運営のボランティアの受け入れを積極的に行った。

- ・ グローバルハイスクール現地授業（長野高校）
7月 10人
- ・ サマーチャレンジボランティア（長野市ボランティアセンター）
7月～ 8月 3人（延べ9人）
- ・ 県民協働研修（長野県職員キャリア開発センター）
8月～10月 3人（延べ15人）

(7) 会員・寄付の拡大、6次産業への参入検討

- ・ イベントの継続的参加者、ボランティア等から法人活動全体の支援者へのステップアップを図り、継続会員へのマメな情報提供や成果報告などを通じて、共感をいただく中で会員の継続を図っていくよう務めた。引き続き、理事を中心として、多くの関係者に対して会員募集や寄付の働きかけに力を入れていくこととなった。
- ・ 本会のミッションである「ワクワク・ホカホカの里山パラダイス」をつくるため、農産物加工・販売、カフェ営業、体験活動の商品化を行い、あわせて財政基盤の確保、雇用の創出する事業の検討を行い、長野市「やまざとビジネス支援補助金」への申請を行った。結果は不採択となったが、事業化にむけた検討を引き続き行う。